

新潟県新潟臨海工業用水道事業の紹介

○事業の主旨

新潟臨海工業用水道は、新潟市山ノ下地域の工業地帯へ給水する西部系と、新潟市と北蒲原郡聖籠町にまたがる新潟東港工業地帯へ給水する東部系とに分けられ、合計給水能力は日量130,000m³である。

○事業の経緯

昭和39年3月に新産業都市建設促進法に基づき「新産業都市新潟地区」が指定され、この中核である新潟東港は、昭和42年6月に特定重要港湾の指定を受けた。

新潟臨海工業用水道は、新潟東港後背地に造成された新潟東港工業地帯に進出する企業の水需要に合わせ、昭和45年度から新井郷川を水源とし、計画給水能力100,000m³/日の施設の建設に着手、昭和50年10月に完成し、一部給水を開始した。

その後、昭和59年度の新潟東港開発計画の見直しに伴い、新たに阿賀野川から日量220,000m³取水することとし昭和57年度に完成した。

また、本工業用水道とは別に新潟市の主要工業地帯である山ノ下地区の地盤沈下対策の一環として、昭和32年に山ノ下工業用水道の建設に着手、昭和34年に給水能力60,000m³/日で給水開始し、その後の能力増強で、昭和45年には80,000m³/日となっていた。

しかし、昭和44年からの阿賀野川における「塩水くさび現象」により、塩素イオン濃度が上昇したため、新潟臨海工業用水道との接続事業を昭和63年度に着手し平成2年7月に完成した。

これにより山ノ下工業用水道を廃止し、平成2年8月には新潟工業用水道事務所を新潟市山ノ下から豊栄市（現新潟市）笹山に移転した。

更に220,000m³/日の一部（12,820m³/日）を上水へ転換したことにより計画給水量は207,180m³/日となり、現在、山ノ下地区へ給水する新潟臨海工業用水道西部系と東港地区へ給水

する東部系で運営している。

○ユーザーの概要

（平成20年12月末現在）

（西部系）

業種	給水件数	契約水量（m ³ /日）
食品	4	1,850
紙・パルプ	1	6,000
化学	1	6,240
石油	3	5,140
窯業	2	110
金属	2	3,000
機械	1	960
電気	1	2,000
ガス	2	5,200
輸送	2	810
その他	5	1,010
官公庁	3	5,300
合計	27	37,620

（東部系）

業種	給水件数	契約水量（m ³ /日）
食品	8	5,340
紙・パルプ	4	4,200
化学	1	300
石油	6	1,930
プラスチック	2	300
窯業	1	80
金属	1	1,560
機械	1	200
電気機械	4	25,120
電気	2	16,830
ガス	3	1,700
輸送	2	40
その他	6	9,341
官公庁	1	150
合計	42	67,091

○施設の概要

新潟臨海工業用水道は、阿賀野川の河口から約36km上流の阿賀野市小松地点にある馬下頭首工から取水し、沢口導水ポンプ場の導水ポンプにより新潟工業用水道事務所内の浄水施設（笹山浄水場）まで、管径1,800mm、延長約17kmの導水管

で導水している。

笹山浄水場では、高速凝集沈殿池において処理した水を送配水ポンプにより、西部系及び東部系の給水区域まで送配水している。

西部系では、新潟市山ノ下工業地帯まで、管径1,100～75mm、延長約30kmの配水管で配水している。

一方、東部系では、直接新潟東港工業地帯まで、管径1,100～75mm、総延長16kmの配水管で配水している。

○事業の特徴

新潟臨海工業用水道東部系が給水している新潟東港工業地帯は、エネルギー供給基地や物流の拠点として、日本海側最大の貨物取扱量を誇る国際貿易港である特定重要港湾新潟東港を中心とした日本海側最大規模の工業団地で、上越新幹線や高速自動車道へのアクセス道も整備されている。

○新潟県企業局のホームページアドレス

<http://www.pref.niigata.lg.jp/kigyo/>

○給水区域図

